



2020年3月期 第3四半期決算 補足資料

2020年2月13日

森六ホールディングス株式会社

2020年3月期第3四半期（連結）経常利益増減要因分析

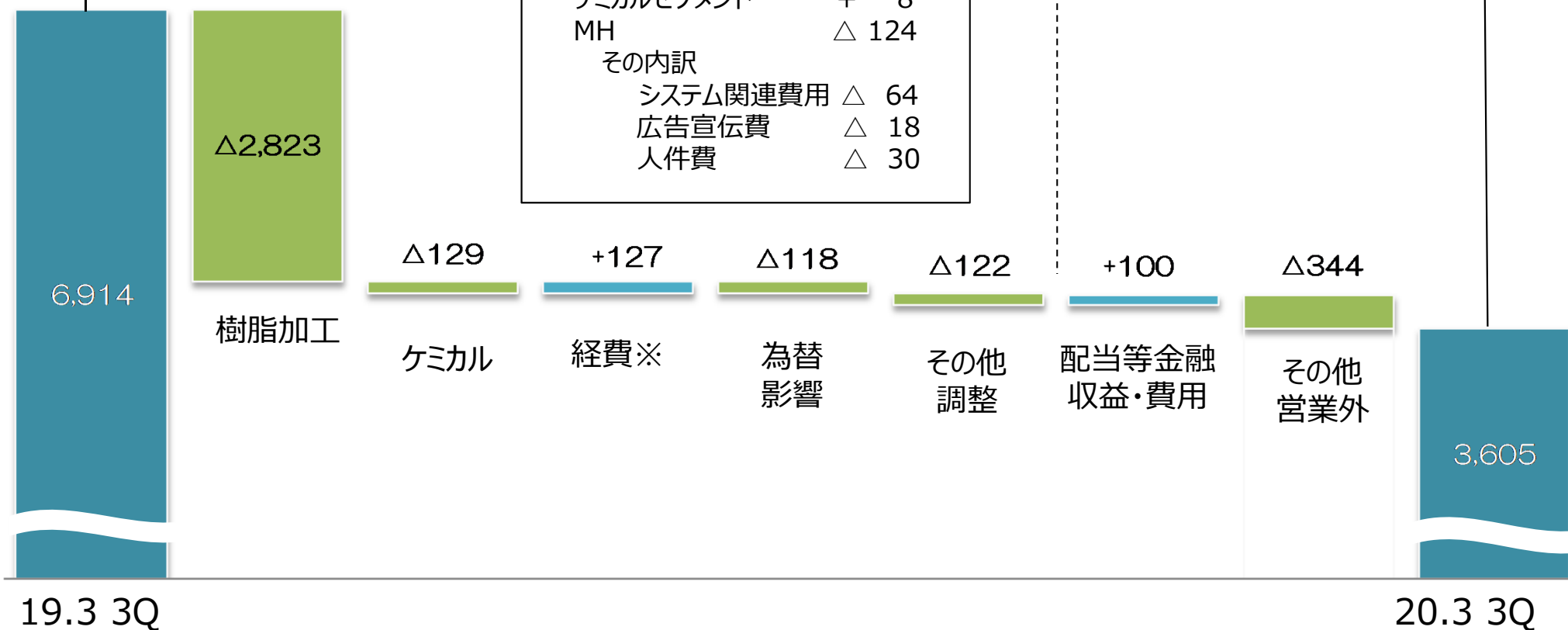
(百万円)

経常利益 $\Delta 3,309$ 百万円 ($\Delta 47.9\%$)

営業利益 $\Delta 3,065$ 百万円
($\Delta 46.3\%$)

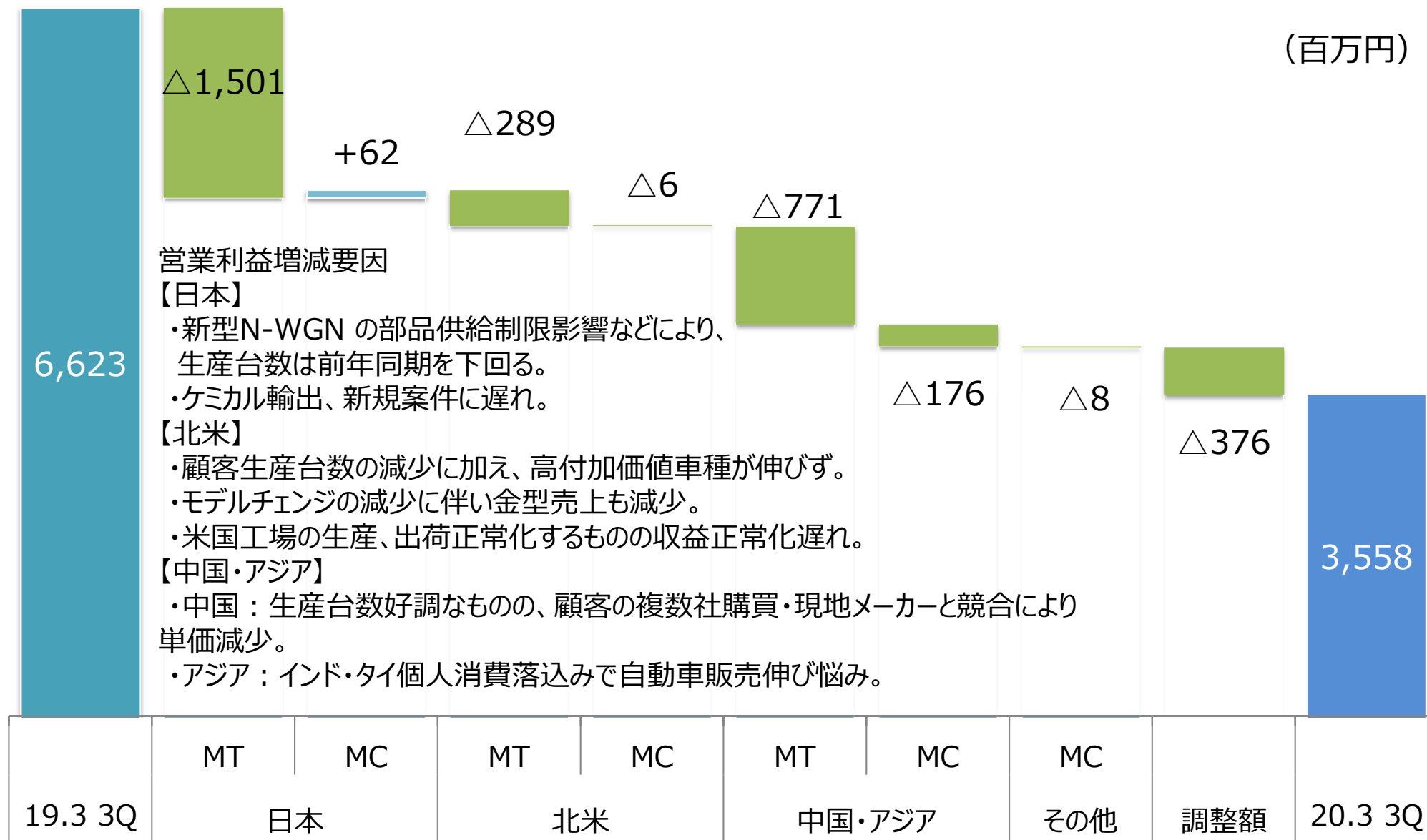
※経費減少（増益）の理由

樹脂加工セグメント	+ 244
ケミカルセグメント	+ 8
MH	$\Delta 124$
その内訳	
システム関連費用	$\Delta 64$
広告宣伝費	$\Delta 18$
人件費	$\Delta 30$



2020年3月期第3四半期 所在地別・事業別営業利益増減要因

(百万円)



第4四半期以降の業績改善のための取り組み

<樹脂加工製品事業>

- ・原価低減、品質向上による競争力強化
- ・塗装・成形の良品率引上げにより、材料費・労務費(時間外・休日出勤)・光熱費等を削減(特に北米)
- ・生産変動に応じた適正人員化、生産の自動化・効率化、内製化率の向上による付加価値生産性の向上(北米、中国はじめ全社)
- ・一昨年秋に発生した米国工場の生産混乱は収束、出荷は正常化し、生産体質を強化中
収益面の改善と再発防止のため、日本人によるマネジメントを強化
- ・既存顧客以外の販路拡大により1台当たり売上減少(製品構成)へ対応

<ケミカル事業>

- ・中国・アジアへ新たな経営資源投入し拡販(中国内陸部・インド・タイ)
- ・完成した四国化工の新工場でのものづくり事業の拡大、付加価値アップ

※ 中国における新型コロナウイルス拡散により、中国の他、各国の生産・販売に影響が出る見通しです。中国については12月決算で、すでに確定しておりますが、その後の直接・間接の影響額は合理的な見積もりが困難であることから、上記予想値には反映しておりません。

2020年3月期第3四半期の取り組み

鈴鹿工場 新塗装工場建設

- ・サイドシルガーニッシュなどの大型外装部品に対応した鈴鹿の新塗装ライン
- ・19年12月末に設備工事完了
- ・機械へのティーチングや調整、品質確認を行い、1月中旬より稼働開始



▲完成した新塗装工場



▲新塗装ライン内部の様子

建坪	2,516m ²
設備投資額	約15億円
日程	2019年 1月 着工 2020年 1月 量産開始
特徴	生産能力：2.2倍 省電化によりCO2排出量15%削減

インド・ニューデリー『AUTO EXPO 2020』に初出展

- ・テクノロジー/ケミカルズ合同で、インド・ニューデリーでの『AUTO EXPO 2020』に出展（海外モーターショーへの初出展）し、現地の自動車メーカーに森六グループの強みを説明しました。



▲コンソール（テクノロジーの展示）



▲二輪車用フェンダー（ケミカルズの展示）



▲入場を待つ多くの来場者

開催日	2020年2月6日から9日（4日間）
出展企業	1,204社
来場者	115,328人